

Ⅲ. 各部門別の生産概要

1. 湯浅農場

1) 柑橘部門

担当 友廣教道

(1) 概況

湯浅農場では約 200 品種（内、柑橘遺伝資源保存園で一般公開しているものが約 140 品種）の柑橘を栽培している。中でも、最も広い面積で栽培しているのがウンシュウミカン（早生品種として‘宮川早生’を、中生品種として‘林温州’を栽培）である。

(2) 栽培概要

病害虫防除および除草剤散布実績については第 2 表および第 3 表に示した。施肥実績としては春肥、秋肥とも“有機ペレット（N-P-K 6-8-4）”を用い、10 a 当たりそれぞれ 160 kg, 180 kg を施用した。

その他、本年の栽培に関する特記事項としては、以下のとおりである。

- ①花の満開期が約 1 週間遅れるとともに着花数が少なかったため、収量が減少。
- ②梅雨時期から 8 月初旬の降水量が少なかったため、灌水を実施。
- ③カメムシが 9 月に大量発生したため、発生密度を減少させる目的でロディー乳剤を 10 月に使用。
- ④果皮が軟化し始めた 9 および 10 月の台風による風雨のため、果皮障害が多くなり、収量が減少。

第 2 表 病害虫防除実績

防除時期	農薬名	希釈倍率	対象病害虫
3 月 12, 16, 17 日	トモノール S	60 倍	カイガラムシ類, ハダニ類
4 月 3, 4 日	IC ボルドー 66D	50 倍	かいよう病
5 月 16 日	ロディー乳剤	2,000 倍	アブラムシ類, シャクトリムシ
	アドマイヤーフロアブル	3,000 倍	アブラムシ類, アザミウマ類
	ナリア WDG	2,000 倍	灰色カビ病, そうか病, 黒点病
5 月 29, 30 日	エムダイファー水和剤	600 倍	黒点病
	コルト顆粒水和剤	2,000 倍	アブラムシ類, チャノキイロアザミウマ
6 月 12~14 日	ジマンダイセン水和剤	500 倍	黒点病
	エルサン乳剤	1,000 倍	カイガラムシ類, ゴマダラカミキリ
	モスピラン顆粒水溶剤	2,000 倍	アザミウマ類, アブラムシ類
7 月 2 日	エムダイファー水和剤	600 倍	黒点病
	ダントツ水溶剤	2,000 倍	アブラムシ類, ゴマダラカミキリ
	スターマイトフロアブル	3,000 倍	ミカンハダニ, チャノホコリダニ
8 月 12 日	ジマンダイセン水和剤	500 倍	黒点病
	エルサン乳剤	1,000 倍	カイガラムシ類, ゴマダラカミキリ
	ハチハチフロアブル	2,000 倍	アザミウマ類, アブラムシ類
9 月 2, 4 日	ジマンダイセン水和剤	500 倍	黒点病
	ダニゲッターフロアブル	2,000 倍	ダニ類
10 月 10~12 日	ロディー乳剤	2,000 倍	カメムシ類
11 月 11, 12 日	ベフラン液剤 25	2,000 倍	貯蔵病害
	ベンレート水和剤	4,000 倍	貯蔵病害

第3表 除草剤散布実績

散布時期	農薬名	希釈倍率	対象雑草
4月18日	タッチダウンIQ	200倍	一年生雑草
7月3日	タッチダウンIQ	100倍	多年生雑草
9月9日	タッチダウンIQ	100倍	多年生雑草

(3) 果実品質・収量および出荷実績

①果実品質評価；指標のひとつである糖度が10.8度（11月6日にサンプリングおよび測定）であった。

②収量実績；本年は（2）に記したように着花量が少なく，かつ，梅雨時期の降水が少なかったため，収量が約78tと前年（収量；約88t）より減少した。

③出荷実績；生果では株式会社 近鉄百貨店で歳暮用商品として出荷した。その他，学内販売用等でお荷した。生果で出荷できなかった果実については，農場独自の“みかんジュース（写真1）”の材料に供した。

(4) その他の柑橘について

ウンシュウミカン以外の品種についても，（2）とほぼ同様の方法（病害虫の防除，肥料の施用等）で栽培した。

柑橘遺伝資源保存園で栽培している柑橘は栽培学や薬学等の分野における研究材料や見学・研修用の材料として用いているが，一部，食材として提供し，その柑橘の使用法についても模索している。

本年は，日本で希少価値が高いブラッドオレンジ（品種；モロ）を桃谷樓グループ（本社；奈良県）に提供した。この果実を材料とし，先方で写真2のようなスイーツを製造・販売し，大変好評を得たようである。

(5) 総括

今後，ウンシュウミカンについては収量を追及するだけでなく，近大みかんというブランドに恥じない高品質・高付加価値のものを世に問えるよう栽培研究を順次，実施していく予定である。

その他の柑橘については遺伝資源として研究用に保有するだけでなく，別項（pp. 17～18）のように見学・研修時にも有効活用できるよう栽培していく予定である。



写真1 「100%近大です。」
無添加みかんジュース



写真2 近大柑橘をつかった
オレンジパンケーキ

2) マンゴー部門

担当 堀川勇次

(1) 概況

面積 10 a のプラスチックフィルムハウス 2 棟に‘アーウィン’を、面積 10 a のプラスチックフィルムハウスに‘愛紅（あいこう）’を栽培している。‘アーウィン’は、開花始めは 3 月下旬、満開期は 4 月中・下旬。収穫時期は、7 月下旬から 8 月下旬であった。‘愛紅’は、開花始めは 3 月下旬で、満開期は 4 月中・下旬であった。収穫時期は 8 月上旬から 9 月中旬であった。

(2) 栽培の概要

病害虫防除実績については第 4 表に、除草剤散布実績は第 5 表に示した。肥料は 3 月 14 日に有機肥料の“フィッシュプロテイン(N-P-K 6-6-4)”を 60 kg/10 a、9 月 7 日に“さざなみ有機(N-P-K 8-12-10)”を 60 kg/10 a を施用した。

(3) 収量および出荷実績

‘アーウィン’および‘愛紅’の収量はそれぞれ約 2,290 kg、550 kg であった。‘アーウィン’は主に学内販売等用として出荷した。その他、関西の市場に出荷し、仲卸を通じて関西の百貨店等で販売された。また、本年から新たに桃谷樓グループのカフェ部門に提供し、パンケーキ等のスイーツとして販売された（写真 3）。

‘愛紅’は関東の仲卸に出荷し、フルーツ店で販売された。

(4) 今後の展望

現在、‘アーウィン’の樹齢が約 30 年を超えてきており、収量の安定化を図るため、改植が必要とされている。数年前から改植を始め、数年後には改植を終える予定となっている。当初 3 条植えにしていたところ、日当たりをよくするため 2 条植えに変更している。また、改植を進めるとともに、樹の仕立て方を樹高が高くないよう樹の周りに鉄管を設置し、枝を誘引して水平に樹を成長させていく予定である（写真 4）。この方法によって着果している果実に多くの日光を当て、果実品質を向上させることができると考えている。



写真 3 近大マンゴーのプレミアムパンケーキ



写真 4 樹の仕立て方

第4表 病害虫防除実績

防除時期	農薬名	希釈倍率	対象病害虫
1月28日	アーデント水和剤	1,000倍	チャノキイロアザミウマ
	オーソサイド水和剤 80	600倍	炭そ病
3月3日	モスピラン顆粒水和剤	2,000倍	チャノキイロアザミウマ
	ベルコート水和剤	1,000倍	炭そ病
3月27日	スピノエース顆粒水溶剤	5,000倍	チャノキイロアザミウマ
	ストロビードライフフロアブル	2,000倍	炭そ病
4月22日	フルピカフロアブル	2,000倍	灰色カビ病
5月2日	キラップフロアブル	2,000倍	チャノキイロアザミウマ
	フルピカフロアブル	2,000倍	灰色カビ病
5月17日	アドマイヤー顆粒水和剤	10,000倍	チャノキイロアザミウマ
	サンマイト水和剤	1,000倍	ハダニ類
6月9日	コルト顆粒水和剤	2,000倍	チャノキイロアザミウマ
	スミレックス水和剤	1,000倍	軸腐病
	ストロビードライフフロアブル	2,000倍	炭そ病
6月17日	ダントツ水溶剤	2,000倍	チャノキイロアザミウマ
	アミスター10フロアブル	1,000倍	炭そ病
7月14日	スピノエース顆粒水和剤	5,000倍	チャノキイロアザミウマ
	ストロビードライフフロアブル	2,000倍	炭そ病
9月21日	ベストガード水溶剤	1,000倍	チャノキイロアザミウマ
	バロックフロアブル	2,000倍	ハダニ類
	ジマンダイセン水和剤	800倍	炭そ病
10月3日	キラップフロアブル	2,000倍	チャノキイロアザミウマ
	サンマイト水和剤	1,000倍	ハダニ類
10月27日	IC ボルドー66D	50倍	かいよう病
11月13日	コルト顆粒水和剤	2,000倍	チャノキイロアザミウマ
	コテツフロアブル	2,000倍	チャノキイロアザミウマ
	ベルコート水和剤	1,000倍	炭そ病

第5表 除草剤散布実績

散布時期	農薬名	希釈倍率	対象雑草
1月19日	ラウンドアップマックスロード	200倍	一年生雑草
4月23日	プリグロックスL	200倍	一年生雑草
6月17日	プリグロックスL	200倍	一年生雑草
9月26日	ラウンドアップマックスロード	200倍	一年生雑草

3) 水稲部門

担当 津本光貴

(1) 概況

10 枚の水田（作付け面積約 160 a）に、うるち米の‘キヌヒカリ’および‘きぬむすめ’を栽培した。本年は例年に比べ夏場の気温が上昇し、かつ、降水量が少なかった。そのため出穂からの水管理が非常に困難であった。また、稲の刈取り時期は例年に比べ長雨となったので稲刈りが遅れた。

(2) 栽培概要

病虫害防除および除草剤散布実績を第 6 表および第 7 表に示した。肥料は稲苗の定植と同時に“スーパーSR コート稲用一発型 20 K 化成(N-P-K 14-14-14)”を 60 kg/10 a(160 a の内、3 a については 30 kg/10 a) の割合で施用した。

第 6 表 病虫害防除実績

防除時期	農薬名	希釈倍率 (使用量)	対象病虫害名
5 月 1 日	スポルタックスターナーSE	200 倍	ごま葉枯病, いもち病
	スミチオン乳剤	1,000 倍	イネシンガレセンチュウ
5 月 26 日～ 6 月 13 日	嵐ダントツ箱粒剤	50 g/箱	いもち病, 紋枯病 ウンカ類
6 月 2～14 日	ショウリョク S 粒剤 (一部圃場を除く)	3 kg/10 a	スクミリンゴガイ
7 月 10～14 日	パダンバッサ粒剤	3 kg/10 a	ニカメイチュウ
7 月 24～8 月 3 日	ブラシンフロアブル	1,000 倍	いもち病, ゴマ葉枯病
	バリダシン 5 液剤	1,000 倍	紋枯病
	パダン SG 水溶液	1,500 倍	ニカメイチュウ
8 月 24, 25 日	ブラシンフロアブル (一部圃場を除く)	1,000 倍	いもち病, ゴマ葉枯病
	アプロード水和剤 (一部圃場を除く)	1,500 倍	ツマグロヨコバイ幼虫
	MR. ジョーカーEW (一部圃場を除く)	2,000 倍	カメムシ, ウンカ

第 7 表 除草剤散布実績

散布時期	農薬名	散布量	対象雑草
5 月 26 日	イノーバーDX 1 kg 粒剤 51 (一部圃場)	1 kg/10 a	水田一年生草
6 月 2～24 日	ショウリョク S 粒剤 (一部圃場を除く)	3 kg/10 a	水田一年生草
7 月 27 日	グラスジン (一部圃場)	200 倍	水田一年生草

(3) 収量実績および総括

収量は約 8 t と前年に比べて約 9%増加した。

極早生品種の‘キヌヒカリ’を主に栽培しているが、近年、夏場の高温により白濁米が多くなり品質の低下が課題となっている。そこで、本年は白濁米が少なくなるような品種（本年は早生品種の‘きぬむすめ’）を選定し、一部の水田で栽培した。その結果、出穂期が‘キヌヒカリ’より遅い‘きぬむすめ’の白濁米割合が少なかった。この結果をもとに、次年は‘きぬむすめ’の作付け面積を増やす予定である。

4) ウメ部門

担当 藤田卓也

(1) 概況

面積約 20 a に大梅‘南高’および小梅‘白王’等を栽培している。

(2) 栽培概要

病害虫防除実績を第 8 表に，除草剤の散布実績については第 9 表に記載した。肥料は春肥として 4 月 4 日に“フィッシュプロテイン (N-P-K 6-6-4)”を 30 kg/10 a，お礼肥として 6 月 6 日に“有機化成 8 号 (N-P-K 8-8-8)”を 20 kg/10 a，秋肥として“さざなみ有機 (N-P-K 8-12-10)”を 30 kg/10 a を施用した。本年 5 月は降水量が少なかったため，例年より多く灌水を実施した。

第 8 表 病害虫防除実績

防除時期	農薬名	希釈倍率 (使用量)	対象病害虫
4 月 3 日	IC ボルドー 60D	50 倍	かいよう病
4 月 4 日	スカシバコン	50 本/10a	コスカシバ
4 月 5 日	ベルコート水和剤	2,000 倍	灰色カビ病
	モスピラン顆粒水溶剤	4,000 倍	アブラムシ類
4 月 12 日	マイコシールド水和剤	1,500 倍	かいよう病
	オーソサイド水和剤	800 倍	黒星病
	バリアード顆粒水和剤	4,000 倍	シンクイムシ類, アカマダラケシキスイ
4 月 25 日	マイコシールド水和剤	1,500 倍	かいよう病
	スコア顆粒水和剤	3,000 倍	黒星病
	アプロードフロアブル	1,000 倍	カイガラムシ類幼虫
5 月 12 日	スコア顆粒水和剤	3,000 倍	かいよう病
	スターナ水和剤	1,000 倍	黒星病
	ダントツ水溶剤	2,000 倍	ケムシ類, カメムシ類
9 月 2 日	アプロード水和剤	1,000 倍	カイガラムシ類幼虫
	スミチオン乳剤	1,000 倍	アメリカシロヒトリ

第 9 表 除草剤散布実績

防除時期	農薬名	希釈倍率	対象雑草
4 月 4 日	プリグロックス L	200 倍	一年生雑草
10 月 4 日	タッチダウン IQ	100 倍	多年生雑草

(3) 収量および今後

‘南高’および‘白王’の収量はそれぞれ約 190 kg，約 15 kg であった。

本年は開花時期に低温が続き，訪花昆虫の数が少なかったため，結実率も悪く収量が例年より減少した。次年では人工的に訪花昆虫の交配用ミツバチを導入し，結実率をあげる予定である。

2. 生石農場

1) 合鴨部門

担当 岩森明彦

(1) 概況

生石農場では、合鴨（チェリバレー種）を 1983 年から肥育しており、近大おいし鴨として販売し好評を得ている。2016年11月から2017年3月にかけて高病原性鳥インフルエンザが猛威をふるったため、2017年1月の雛導入を中止した。鳥インフルエンザ対策に万全を期すため、肥育舎と飼養衛生管理基準について紀北家畜保健衛生所に現地確認を実施していただいた。指摘箇所を改善し、8月より再度、雛の導入を開始した。

(2) 導入および出荷の概要

近大おいし鴨の雛導入および出荷状況を第10表に示した。1回の導入120羽を年4回行い、出荷羽数は473羽であり、昨年より522羽減少した。なお、合鴨雛の導入は従来通り、高橋人工孵化場より行った。

(3) 収量および販売実績

近大おいし鴨の収量は約800kgであった。合鴨肉の販売部位については、ロース肉（ブロックおよびスライス）とモモ肉（ブロックおよびスライス）の2種類（写真5）あり、株式会社モンマルシェ（兵庫県尼崎市）、JA紀の里ファーマーズマーケットめっけもん広場（和歌山県紀の川市）、ファーマーズマーケットどんどん広場、有田川町農林産物加工直売所あらぎの里（和歌山県有田川町）等で販売した。

(4) 総括

合鴨は臆病で大きな音、風等で騒いでしまい足等を痛めてしまう。このような事象が起らないように、ストレスを軽減する肥育環境や与える餌による高品質な肉質作りを地域貢献に繋げていこうと考えている（写真6）。また、合鴨の糞で堆肥を作り、農産物の肥料とした循環型農業を進めていく予定である。



写真5 近大おいし鴨のロース肉およびモモ肉のスライス



写真6 合鴨に給餌している様子

第10表 近大おいし鴨の雛導入および出荷状況

雛導入日	肥育日数	出荷日	出荷羽数
2016年11月9日	59, 66, 72日	1月6, 13, 19日	115羽
12月7日	57, 63, 66日	2月2, 7, 9日	118羽
2017年8月17日	58, 65, 67日	10月13, 20, 22日	120羽
8月31日	58, 70, 72日	10月27日, 11月8, 11日	120羽

2) サツマイモ部門

担当 大碓靖之, 浦西章生

(1) 概況

圃場4.8 aに‘シルクスweet’ 0.5 a, ‘安納芋’ 1 aおよび‘なると金時’ 3.3 aを栽培した。

(2) 栽培の概要

元肥[圃場全体に牛糞堆肥 400 kg, バーク堆肥 450 kg, カキガラプラス 40 kg, “有機化成 8 号 (N-P-K 8-8-8)” 20 kg] 施用後, 耕起を行い, 4 月 27 日には雑草防除のためグリーンマルチを敷設した。5 月 4 日, 3 品種の挿し穂を定植し, 8 月 15 日に蔓返しを実施した。9 月 27 日から 10 月 4 日にかけて, ‘シルクスweet’, ‘安納芋’, ‘なると金時’ の順で収穫した (写真 7)。また, 雑草防除のため除草剤を散布した (第 11 表)。



写真 7 栽培中のサツマイモ

(3) 収量および出荷実績

‘シルクスweet’, ‘なると金時’ および ‘安納芋’ をそれぞれ 108 kg, 394 kg, 202 kg 収穫した。3 品種すべて産直市場で販売し, ‘なると金時’ および ‘安納芋’ については, 農学部学園祭でも販売した。

(4) 今後の展望

一般的にサツマイモの栽培には土質が影響するといわれている。そこで, ‘安納芋’ の品質を指標に新しい圃場では糖度がどのように変化しているかを検討し, サツマイモ栽培に適した圃場を選定する予定である。

第 11 表 除草剤散布実績

防除時期	農薬名	希釈倍率	対象雑草
5 月 26 日	ラウンドアップマックスロード	200 倍	一年生雑草
5 月 31 日	ラウンドアップマックスロード	200 倍	一年生雑草

3) ジャガイモ部門

担当 大碓靖之, 浦西章生

(1) 概況

①春定植ジャガイモ；面積3aの圃場で‘ニシユタカ’，‘インカのめざめ’，‘シャドークィーン’および‘ノーザンルビー’の4品種を栽培した。

②夏定植ジャガイモ；面積8aの圃場で‘ニシユタカ’を栽培した。

(2) 栽培の概要

①春定植ジャガイモ；元肥（圃場全体に牛糞堆肥275kgおよびバーク堆肥275kg）を施用，さらに，3月11日の定植時に“有機化成8号(N-P-K 8-8-8)”を15kg施用した。4月21日，5月8日に土寄せと追肥[“有機化成8号(8-8-8)”15kg]を行った。6月20日から収穫した。なお，病虫害の防除については第12表に示した。



写真8 栽培風景

②夏定植ジャガイモ；元肥（圃場全体に牛糞堆肥1,875kgおよびバーク堆肥1,875kg）を施用し，7月25日の定植時には“有機化成8号(8-8-8)”を60kg施用した。8月13日，8月26日に土寄せと追肥[“有機化成8号(N-P-K 8-8-8)”15kg]を行った（写真8）。10月24日から収穫した。なお，病虫害の防除については第13表に示した。



写真9 販売中のジャガイモ

(3) 収量および出荷実績

①春定植ジャガイモ；‘ニシユタカ’109kg，‘インカのめざめ’50kg，‘シャドークィーン’61kgおよび‘ノーザンルビー’54kgを収穫し，産直市場（写真9）で販売した。

②夏定植ジャガイモ；‘ニシユタカ’1,136kg収穫し，産直市場と農学部学園祭で販売した。

(4) 今後の展望

一般的なジャガイモの収穫期をずらすことにより，市場では新芋が出回っていない時期に提供できるような技術体系を確立し，かつ，新芋を長期間にわたり提供できるようにしていく予定である。現在，4月下旬の新芋収穫を目指し，露地とビニールハウスの2カ所で試験栽培を開始している。

第12表 病虫害防除実績

防除時期	農薬名	希釈倍率	対象病虫害
4月20日	オルトラン水和剤	2,000倍	アブラムシ類，ヨトウムシ
5月10日	オルトラン水和剤	2,000倍	アブラムシ類，ヨトウムシ
	モスピラン水和剤	2,000倍	アブラムシ類

第13表 病虫害防除実績

防除時期	農薬名	希釈倍率	対象病虫害
8月19日	オルトラン水和剤	1,000倍	ヨトウムシ
8月31日	トレボン乳剤	1,000倍	アブラムシ類
9月9日	カセット水和剤	1,000倍	軟腐病

4) ニンジン部門

担当 大碓靖之, 浦西章生

(1) 概況

面積 0.3 a に ‘本紅金時’ と ‘向陽二号’ を栽培した。

(2) 栽培の概要

病虫害防除実績は第 14 表に示した。6 月 19 日に元肥 [圃場全体に牛糞堆肥 250 kg, “有機化成 8 号 (N-P-K 8-8-8)” 40 kg およびカキガラプラス 20 kg] を施用し, 耕起した。6 月 22 日に播種し, 種子の乾燥を防ぐため, 稲藁を上にも薄く敷きつめた。7 月 18 日に発芽した。9 月 21 日, 10 月 5 日および 11 月 3 日に追肥として“野菜専用肥料 (N-P-K 14-10-13)” を 18.5 kg 施用した (写真 10)。



写真 10 栽培中のニンジン

(3) 収量および出荷実績

‘本紅金時’ および ‘向陽二号’ の収量はそれぞれ 58 本, 59 本であった。‘本紅金時’ は農学部学園祭のみで販売した。‘向陽二号’ は農学部学園祭および産直市場で販売した。

(4) 今後の展望

ニンジン栽培で最も難しい技術は発芽させることである。本年は播種時期が初夏に当たったため, 気温および地温の上昇が発芽率を低下させたと考えられる。次年は遮熱シートや籾殻等を用いて地温の上昇を抑制し, 発芽率を高める予定である。

第 14 表 病虫害防除実績

防除時期	農薬名	希釈倍率	対象病虫害
8 月 19 日	馬拉ソン乳剤	2,000 倍	アブラムシ類
9 月 16 日	馬拉ソン乳剤	2,000 倍	アブラムシ類

5) ニンニク部門

(1) 概況

面積 2.4 a の圃場に ‘ホワイト6片’ を栽培した。

(2) 栽培の概要

病害虫防除実績については第 15 表に示した。2016 年 9 月 27 日に元肥[圃場全体に牛糞堆肥 3,500 kg, 固形肥料 30 号プラス 80 kg, 苦土セルカ 60 kg およびリンスター (N-30) 20 kg] を施用した。10 月 11 日から種球の定植を開始し, 10 月 20 日に終了した。追肥として 2016 年 12 月 3 日, 2017 年 3 月 4 日, 4 月 4 日および 5 月 1 日に “苦土入り有機化成特 A801 (8-8-8)” を 20 kg ずつ施用した (写真 11)。抽苔 (ちゅうだい) 時期に蕾欠きを行い, 6 月 5 日に収穫し乾燥を行った。

(3) 収量および出荷実績

‘ホワイト6片’ 2,185 個を収穫し, 農学部学園祭と産直市場で販売した (写真 12)。収穫したもののうち 10 kg を 2017 年 10 月に定植用種球とした。

(4) 今後の展望

大粒のニンニクを収穫するためには, 春先からのりん片分化が重要である。今後, 大粒ニンニク収穫のため, 早期定植を行い, 生育を促進させる予定である。



写真 11 栽培中のニンニク



写真 12 販売中のニンニク

第 15 表 病害虫防除実績

防除時期	農薬名	希釈倍率	対象病害虫
4 月 18 日	ナレート水和剤	2,000 倍	春腐病
	トリフミン水和剤	2,000 倍	葉枯病
5 月 8 日	ナレート水和剤	2,000 倍	春腐病
	ベルコート水和剤	1,000 倍	葉枯病

6) ブルーベリー部門

担当 浦西章生

(1) 概況

栽培面積 1 a に 3 品種（早生品種の‘チャンドラー’ 4 本，中生品種の‘ティフブルー’ 3 本および‘オレゴンブルー’ 3 本）を試験栽培している。2016 年に各品種 3 年生苗を定植し，2017 年から全品種共に 5 月上旬から蕾をつけ開花した。6 月上旬には着果を確認し，7 月下旬から 9 月上旬に収穫した（写真 13）。

(2) 栽培の概要

4 月 5 日，各株元周辺にピートモスを敷き，硫安 50 g/株を施用した。追肥として 5 月 3 日，6 月 2 日および 11 月 3 日に硫安 50 g/株を施用した。土壌水分を保持するため刈草を株元に敷き，土壌の状態を観察しながら灌水を行った。また，強風による枝の破損防止のため，支柱に誘引も行った。果実の着果を確認した後，野鳥等による食害防止のため，防鳥ネットを各樹に設置した。

(3) 収穫量

各品種の収穫個数を第 16 表に示した。3 品種のうち，‘チャンドラー’の収穫は 7 月下旬頃から 8 月下旬まで収穫でき，‘ティフブルー’および‘オレゴンブルー’は 8 月中旬頃から 9 月上旬頃まで収穫できた。収穫期の異なる品種を栽培することで全体の収穫期間を 7 月下旬頃から 9 月上旬頃まで行うことができた（写真 14 および 15）。

(4) 今後の展望

収穫量の増加と樹木の生育促進を図るために剪定を行っていくとともに，収穫できた果実の利用方法を模索していく予定である。



写真13 定植2年目の樹木

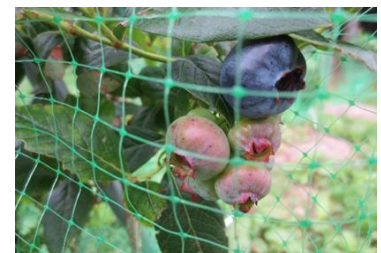


写真14 収穫前の果実



写真15 収穫後の果実

第 16 表 収穫実績

品種名	収穫期間	収穫個数	果実の平均径 (mm)	
			直径	厚み
チャンドラー	7 月下旬～8 月下旬	116 個	17.9	12.0
ティフブルー	8 月中旬～9 月上旬	44 個	12.0	12.1
オレゴンブルー	8 月下旬～9 月上旬	19 個	10.8	8.7